

## 序

本書は東日本大震災発災後からの日本診療放射線技師会（以下、本会）が行ってきた放射線被ばく相談事業の一部をまとめたものである。発災の翌日午後に東京電力福島第一原子力発電所1号機で水素爆発が発生した。夜には東京電力福島第一原子力発電所から半径20キロ圏内の住民の避難指示が発令された。

このような状況のなか、本会は地震災害対策本部を事務所に設置し、原子力事故に伴う放射性物質の飛散に対応した放射線サーベイヤ（診療放射線技師）の確保と派遣の準備に入った。その後、内閣府原子力委員会および厚生労働省から、東京電力福島第一原子力発電所付近に住んでいた住民が避難したので避難所における放射線サーベイヤの派遣できる人数および貸し出せるGMサーベイメータ数を教えて欲しいとの連絡を受け、3月16日に第1次隊12名の診療放射線技師を派遣した（この様子は当日のNHKテレビで放映された）。

本会が行った主な活動を以下に紹介する。

- 1）福島県災害対策本部（緊急被ばく医療調整本部）と協力し、地域住民の放射線スクリーニング活動・放射線被ばく相談活動を実施した。
- 2）厚生労働省を仲介として福島県警察本部から検案前の遺体に対する放射線サーベイ依頼があったため、検案前遺体に対する放射線サーベイも4月から8月まで実施した。

- 3) 東日本大震災発災直後から、放射線被ばく相談活動を開始した。また、環境省の放射線被ばく個別相談センター事業の要請を受け、メールにて放射線被ばく個別相談を実施した。
- 4) 厚生労働省の依頼を受け、福島県第一原子力発電所診療所に約1年間にわたり48時間交替で診療放射線技師を派遣した。
- 5) 現在も被災者健康支援連絡協議会と連携し、支援活動を行っている。

本書は、国民が疑問に思っている「放射線被ばく」について診療放射線技師の専門家が解りやすくまとめたものである。大いに活用していただきたいと思っている。

最後に、本書の出版にご尽力いただいた医療科学社編集部スタッフに深甚の謝意を表します。

平成25年3月吉日

公益社団法人 日本診療放射線技師会  
会長 中澤 靖夫